

エフトレノナコグアルファ

Eftrenonacog Alfa

● **オルプロリクス**

(バイオジェン・アイデック・ジャパン)

注：500u,1000u,2000u,3000u.

キャップ色：青,緑,赤,灰.

溶解液：0.325%NaCl液5mL.

[特] a.長時間作用型第IX因子製剤.

β相の半減期はノナコグアルファ

の2.4倍と長い.

[効]第IX因子欠乏時の出血傾向の抑制.

[用]添付の溶解液全量で溶解後,

数分かけ緩徐に静注.

a.初め：週1回50u/kg又は

10日に1回100u/kg

以後,投与量,投与間隔は適宜調節.

最大：100u/kg.

b.1u/kgで血漿中第IX因子1%(1u/dL)上昇.

・必要量=体重(kg)×第IX因子の目標

上昇値(%又はu/dL)×第IX因子の

上昇値の逆数[(u/kg)/(u/dL)]

c.急性出血時又は周術期での投与量

及び投与間隔の目安は添付文書参照.

d.12歳未満は高投与量,頻回投与となる

可能性がある.

[体内動態] 半減期はα相5.03時間,

β相は82時間

(<12才で70時間,<6才63時間)

[慎]肝疾患,術後,新生児,血栓塞栓性事象

のリスク,線維素溶解の徴候,DICは

→血栓塞栓性のリスク.

[注]1.第IX因子インヒビター発生の注意

→アナフィラキシー増.

アレルギー反応の既往→

インヒビターの有無を確認.

・急性過敏症は投与初期に注意.

2.効果確認のため

第IX因子レベルをモニタリング.

3.在宅自己注射は医師の管理下で行う.

[患]1.妊婦へは有益性,危険性から判断.

2.授乳は投与しない.

[副]A.重大：a.ショック,アナフィラキシー,

b.血栓塞栓症.

D.頭痛,浮動性めまい,味覚異常,口の

錯感覚,呼吸臭,疲労,注入部位疼痛,動

悸,閉塞性尿路疾患,低血圧.

[臨床検査] a.PTT試薬(カオリン含有)

で,凝固一段法で低値を示す.

[調整] a.添付の溶解液のみ使用,

b.激しく振盪しない.

c.他の製剤と混合しない.

[使用期限] a.溶解後：室温(30℃まで)

で6時間.

b.未使用：室温(30℃まで)で使用期限

を超えないで6ヵ月以内に使用.

冷蔵庫に戻さない.

[備]凍結を回避,2~8℃で遮光保存,

有効期限2年.